

協力企業・協力団体 (順不同)

エコツーリズムプロジェクトチーム員

私たちは、かけがえのない奥入瀬渓流の自然環境を保全するため、訪れる皆さんに自然の大切さを理解してもらい、永続的な保全と、自然環境を活かした地域振興を図る「奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト」を実施しています。

協賛企業

NTT東日本 青森支店／ジェイアールバス東北(株)

青森県ウォーキング協会／上北農産加工農業協同組合

田中建設(株)／(一財)十和田湖ふるさと活性化公社

丸井重機建設(株)

東北電力(株)十和田営業所／(株)青工 十和田支店

紺野建設(株)／みちのくコカ・コーラボトリング株式会社／鳴子温泉売店

東北インテリジェント通信(株)／田中建設工業(株)／(株)中達組

十和田おいらせ農業協同組合／(株)吉田産業／(公社)十和田青年会議所

十和田食堂／程川電気工事(株)／(株)十和田ビルサービス／十和田タクシー(株)

十和田シティホテル／(株)ふじの

「併催イベント」提供・協力

十和田湖観光汽船(株)：シャトルバスチケット特典提供

十和田観光電鉄株十和田湖双胴船：シャトルバスチケット特典提供

「併催エコツアー」協力

青森県ウォーキング協会／NPOあおもり観光誘客推進協会

NPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学／青森県立十和田西高等学校

「奥入瀬エコロードフェスタ」スタッフ協力

青森県警察／青森県／十和田市／十和田市交通指導隊／(社)十和田市観光協会

お問合せ

奥入瀬渓流利用適正化協議会事務局

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会事務局

《代表》青森県県土整備部道路課整備推進グループ TEL.017-734-9651

奥入瀬渓流 エコツーリズム・プロジェクト

2013 実施報告書



奥入瀬渓流利用適正化協議会

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

豊かな自然を快適に味わう為に

奥入瀬渓流は車で気軽に立ち寄ることができる国立公園である反面、観光シーズンは観光車両が殺到し、渋滞を引き起こしています。また、路上駐車やアイドリングをしたままの車両も多く見受けられ、奥入瀬渓流の自然環境はもちろん、散策(ウォーキング)をしている利用者の方々にも決して良い環境とは言えません。

奥入瀬渓流利用適正化協議会では「自然環境保全と渋滞解消」を目的とし、マイカー交通規制の試行に取り組んでいます。しかし、渓流沿いの国道102号は地域の生活道路であり、産業道路としての物流機能も担っており、また、迂回路では大型車のすれ違いが困難となっています。

このため、規制車種や期間の拡大のためには、さまざまな課題が残っておりますが、今後毎年の試行を継続し、皆様のご理解をいただきながら定着を図って参ります。

はじめに

奥入瀬渓流は、十和田八幡平国立公園の中で最も保全基準の厳しい特別保護地区に指定されており、自然環境を良好に保全すべき地区です。

奥入瀬渓流利用適正化協議会では、自然環境保全と渋滞解消を目的に平成15年からマイカー交通規制を試行しており、今年で8回目の実施となりました。

マイカー交通規制は、自然環境保全や渋滞解消につながるだけでなく、本来の自然美や渓流美をそのままに活かす環境を創出する取り組みです。

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会では、「奥入瀬渓流エコロードフェスタ」として、マイカー交通規制の環境の中で、奥入瀬渓流三里半ウォークや高校生ボランティアガイドウォーク、巨木探検ツアー等のエコツアーを催行しました。

東日本大震災後、観光客が激減する中、これまで以上に十和田湖・奥入瀬渓流を身近に感じていただくとともに、県内外からの観光客の誘致に繋がるきっかけとなるよう努めたいと思います。

これからも、自然を尊重し、自然に感謝し、永続的に保全する努力を行い、奥入瀬渓流の自然の奥深さや幅広い魅力をより多くの方々に知っていただけるよう、官民一体となって取り組んで参ります。

これらの取り組みは、県内外の企業の皆様からの御協賛と地元関係団体をはじめ多くの皆様から支えられています。

ここに今年度の事業が無事に終了できましたことを事務局、スタッフ一同より深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしく一層のご理解、ご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

奥入瀬渓流利用適正化協議会

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

目次

- P 3 平成25年度マイカー交通規制試行結果
- P 5 交通規制中の奥入瀬渓流
- P 6 来訪者アンケート結果(H23~H25)
- P 7 奥入瀬渓流エコロードフェスタ エコツアー催行結果
- P11 その他のイベント 催行結果
- P13 奥入瀬渓流エコツーリズムフォーラム2013
- P14 奥入瀬渓流エコロードフェスタの記録



平成25年度マイカー交通規制試行結果①

紅葉のピークと重なる日程でしたが、前日に日本に上陸した大型台風の影響から参加者は伸びず、平年の半分程度の利用者数となりました。

開催中は大きく天候が崩れることもなく、無事安全に奥入瀬渓流マイカー交通規制を行うことができました。

来年度以降も継続して実施を予定しておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



平成25年度マイカー交通規制試行結果②

規制の概要

試行日時	H25.10.26(土)	H25.10.27(日)	規制車両外	バス、大型、中型、タクシー、自動二輪等
気象状況	曇り	曇りのち雨	シャトルバス	焼山 ⇄ 休屋 20分又は15分間隔 往復フリーパス800円
規制時間	9:00~16:00		駐車場	無料:焼山(計1箇所:270台) 有料:休屋(計2箇所:660台)
規制車両	マイカー車両(レンタカー含む)			

試行結果の概要

シャトルバス利用者数

10/26(土)	602人
10/27(日)	950人
合計 1,552人	

駐車場利用台数

10/26(土)	約490台
10/27(日)	約880台
合計 約1,370台	

温室効果ガス・大気汚染物質が大幅に減少

マイカーを規制した結果、渓流区間の交通量が減少したことにより、温室効果ガス(CO₂)、大気汚染物質(Nox)が大幅に減少しました。

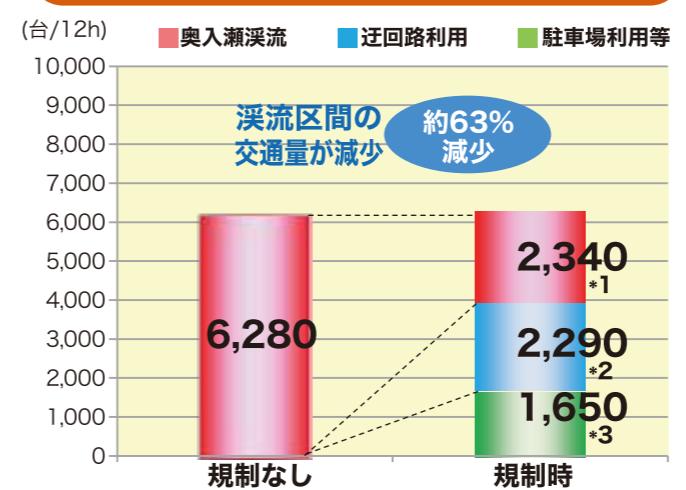
■CO₂ 排気量



■NOx 排出量



渓流区間の交通量は約63%(約39百台)減少



*1.「規制なし」とは、当日の規制を実施しなかった場合に想定される交通量推計値

*2.「規制時」とは、H25.10.26(土)・H25.10.27(日)の調査結果に基づく交通量

*3.惣辺交差点交通量調査結果(渓流区間)

*4.青ブナ山交差点交通量調査結果(迂回路利用)

*5.H25駐車場利用台数×0.6(H15駐車場利用者アンケート調査結果より)×往復

渋滞が解消

渓流区間の交通量の大幅な減少により渋滞が解消しました。マイカー交通規制により快適な渓流環境となっています。



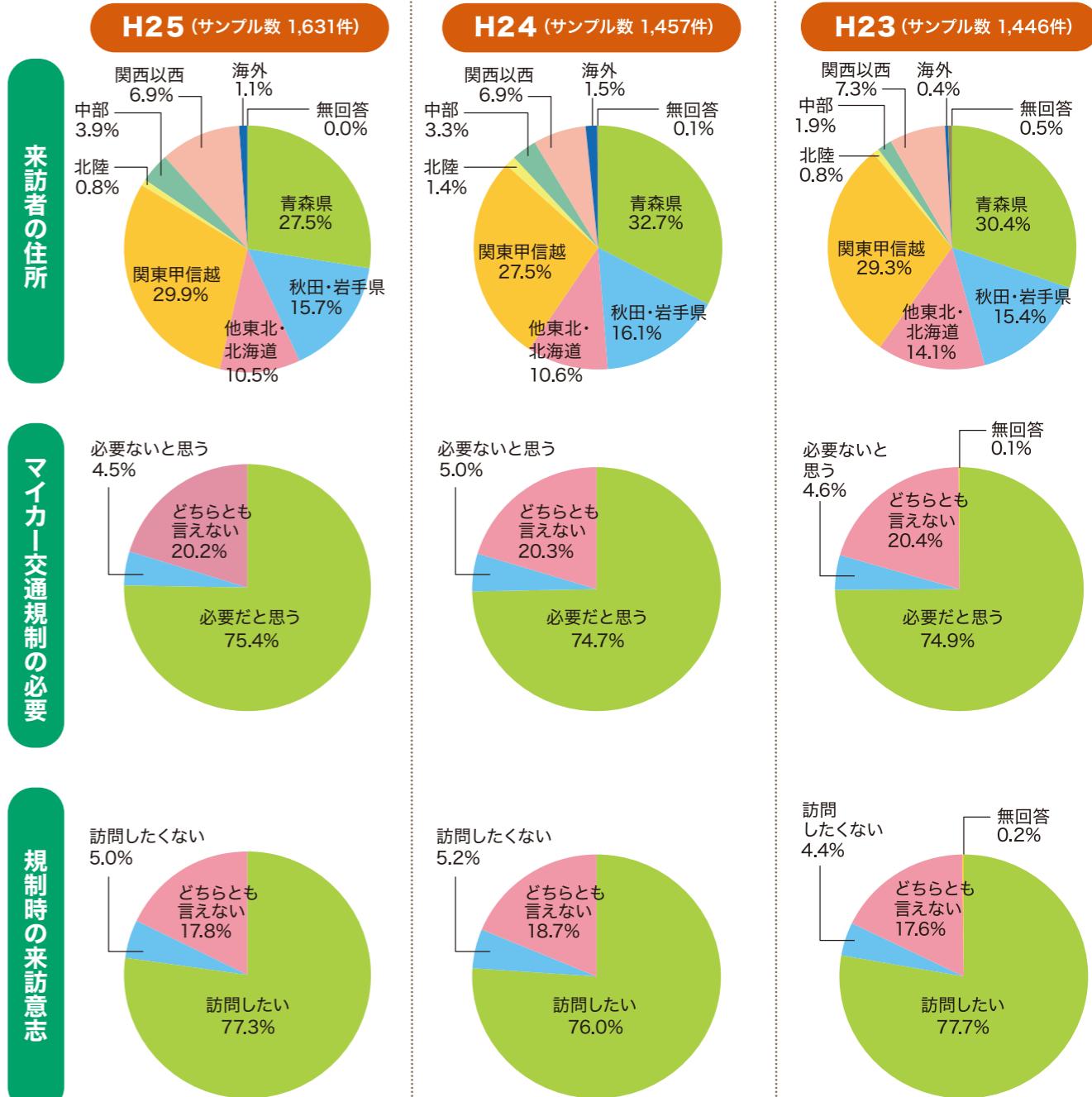
*1.「規制なし」とは、H25.10.17(木)、19(土)、20(日)の調査結果

*2.「規制なし」で最大となった、H25.10.19(土)の調査結果を計上

交通規制中の奥入瀬渓流



来訪者アンケート結果(H23~H25)



フリーアンサー

FREE A 意外と歩道が狭くて大変だった。
(30歳未満／男性 ■埼玉県)

FREE A こういう規制は必要で代替交通で便利を図ればいいと思う。
(60歳以上／男性 ■神奈川県)

FREE A 紅葉がきれいです。バスの排気ガスがきれいになるといいですね。
(40歳代／女性 ■神奈川県)

FREE A シャトルバスの便が多く不便なく観光できました。(40歳代／女性 ■京都府)

FREE A 自然を守ることの大切さを実感し季節の素晴らしさを味わえて感激しました。
(60歳以上／女性 ■愛知県)

奥入瀬溪流エコロードフェスタ エコツアーコース①

マイカー交通規制によって、普段とは違う静寂な奥入瀬溪流が生まれます。この機会に、多くの皆様にその魅力を体感していただくため、奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会では、様々なウォークイベント、自然ガイドツアー等のエコツアーコースを催行しました。

エコロードフェスタ期間だけでなく、通年でのエコツーリズム観光推進に向けて、今後も幅広いメニューを検討し、皆様に提供していきたいと考えています。

コース① 青森500選チャレンジウォーク

青森県ウォーキング協会・NPOあおもり観光誘客推進協会



青森県500選11コース全て完歩のチャンス！

※10月19日・20日開催の「縄文の杜あおもりツーダーマーチせっかくウォーク」で500選残り7コース企画いたします。



湖上遊覧

奥入瀬溪流エコロードフェスタ エコツアーコース②



美しいブナ林の紅葉と溪流のせせらぎを歩く 奥入瀬溪流三里半ウォーク

青森県ウォーキング協会・NPOあおもり観光誘客推進協会



日本市民
スポーツ連盟
認定大会

美しい日本の
歩きたくなるみち500選

～美しいブナ林の紅葉と溪流のせせらぎを歩く～
奥入瀬溪流全区間14km(三里半)、約4~5時間のコースです。

実施日 2013年10月26日(土)、27日(日) 参加費 3,000円

集合場所 奥入瀬溪流館(焼山) 集合 9:40 出発 10:00

コース 奥入瀬溪流館(焼山) 奥入瀬溪流 徒歩/14km ▶ 子ノロ 湖上遊覧 ▶ 休屋

シャトルバス代

十和田湖遊覧船

傷害保険を含みます。



奥入瀬渓流エコロードフェスタ エコツアーコース③



コース3km

奥入瀬渓流見所3km満喫！1時間コース！

高校生ボランティアガイドウォーク

NPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学

高校生ボランティアガイドウォーク 十和田西高校の生徒さんの協力によるガイドが同行します。

実施日 2013年10月26日(土)、27日(日) 参加費 無料

参加方法 9:00から11:15の間に出発するシャトルバスへ高校生ボランティアガイドが同乗しますので、石ケ戸バス停降車時にボランティアガイドのところへお集まりください。

A コース 9:00～10:40の間に出発

所要時間 2時間30分 休屋 シャトルバス → 石ケ戸 (1時間15分) 徒歩/3km → 雲井の滝 シャトルバス → 休屋

B コース 9:00～11:15の間に出発

所要時間 1時間50分 烧山 シャトルバス → 石ケ戸 (1時間15分) 徒歩/3km → 雲井の滝 シャトルバス → 烧山



奥入瀬渓流エコロードフェスタ エコツアーコース④



日本一のブナ「森の神」と重要文化財を体感しよう！

巨木と重要文化財(旧笠石家)めぐり

NPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学

巨木探検ツアー 認定ガイドが同行します。

実施日 2013年10月26日(土)、27日(日) 参加費 500円

集合場所 烧山駐車場の受付テント

スタート 10:00/13:00 各回先着 20名

コース
所要時間 2時間 烧山 ツアー バス → (1時間15分) 日本一の 機ノ木 ツアー バス → 天然記念物の大銀杏 重要文化財旧笠石家 (南部昔語り) ツアー バス → 烧山



その他イベント 催行結果①

休屋・休平地区



その他イベント 催行結果②

燒山地區



電気バス試乗会

環境にやさしいバス運行の今後の可能性や課題等を調査すること目的に、電気バス試乗会を実施しました。

運行区間

焼山↔子ノ口

8:50~16:50の間に4往復
走行距離 約14km 所要時間 約40分



エコツアーステーション

《設置場所／休屋棧橋前》

エコツアーステーションでは、十和田湖・奥入瀬渓流で行われているエコツアーについて様々な情報発信をしました。また、「セグウェイ」の試乗体験(休屋のみ)など、多くのお客様にお立ち寄りいただきました。

情報を発信しているエコツアーリスト

- ネイチャーランブリングツアー ■カヌーツアー
■スノーランブリングツアー ■自然ボランティアガイド

“ecoもび”展示会

《展示場所／休屋棧橋前》

奥入瀬渓流の環境問題、自動車利用の在り方を考えて
いただくことを目的に、休屋
地区内で電気自動車の展示
会を実施しました。



第7回 奥入瀬渓流エコツーリズムフォーラム2013

昨年に引き続き今年も「奥入瀬渓流エコツーリズムフォーラム2013」が、十和田市の市民文化ホールで開催されました。奥入瀬渓流周辺では今年5月、渓流を回り道する国道103号「青樅山(あおぶなやま)バイパス」が国の事業として採択されました。そこで国や青森県、十和田市は現在、豊かな自然を保護するため、渓流沿いを通る国道102号での車両規制を検討しています。フォーラムでは市民ら約200人が、タレント高木美保さんと観光カリスマ山田圭一郎さんの講演や、三村申吾知事を交えたフリートークを通じて、奥入瀬渓流の利活用や自然保護について考えました。

実施日 2013年11月30日(土) 14:00~16:30

場所 十和田市民文化センター
[視聴覚ホール]

主催 NPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学

共催 奥入瀬渓流エコツーリズム
プロジェクト実行委員会



特別 講演



タレント
高木 美保さん

たかぎ・みほ 1962年生まれ。東京都世田谷区出身。年、映画「Wの悲劇」でデビュー後、多くのドラマに出演。バラエティー番組にも挑戦し、お茶の間の人気を集めます。年月、自然と共にある生活を求めて、栃木県那須高原に住まいを移し、農業にも取り組む

基調 講演



観光カリスマ、
JTC.SWISS代表
山田 圭一郎氏

やまだ・けいいちろう 1965年生まれ。三重県津市出身。スイス・ツェルマット観光局を経て、年、JTC.SWISS(日本語インフォメーションセンター)を設立。地域振興・再生のコンサルタントとして多くの成果を残したほか、大学の客員教授なども務める

テーマ 奥入瀬との出会い 地元の良さ笑顔で伝えて

観光客は心のふれ合いに満足して帰ります。わたしが那須で出会ったのは、家具屋の面白いおばちゃんでした。ぶらっと入ると「テレビに出ているより普通の顔してるな」と言わせ楽になりました。世間話をしながら漬物を食べて、お付き合いが始まりました。那須にはほかにも、大らかで笑顔の明るい名物ばあちゃんがいます。奥入瀬にも、幸せそうに自慢しながら語る人がいたら印象に残ります。観光地には、そうした人と人との心の開拓者が必要だと思います。地元のよさに浸って自然に甘えてください。自然は必ず答えをくれます。そのいただいた答えを和やかに、幸せそうに観光客に分けてください。

テーマ「観光で奥入瀬・十和田を元気にするためのヒント」

わたしが「ツェルマットに住んでいます」と話すと「いいところに住んでるね」と言われます。十和田もそんな地域にしてみませんか。これが最大のヒントです。みなさんが「うちには奥入瀬という豊かな自然がある」と誇りを持っていないと誰も来ません。外から来た人に「十和田、奥入瀬には何もない」と口にしていませんか。十和田のバラ焼きも、地元の人がおいしいと言っているから食べに来るので。今後新しくバイパスができる、自然を楽しむツアープログラムができるかもしれません。徹底的に「奥入瀬・十和田人」になってください。この地に生まれ、育って良かったと誇りを持つことが大事です。目先だけでなく将来のことを考え、この地に住んで幸せを感じる「感幸地」を目指してください。

奥入瀬渓流エコロードフェスタの記録

